第3章

大間町史

防災・防犯

第1節 消　防

1 消防団

消防団の歩み　消防団は市町村の非常備の消防機関です。消防団員は他の本業を持ちながら、権限と責任を有する非常勤特別職の地方公務員として、「自らの地域は自ら守る」という精神に基づき、消防防災活動を行います。

歴史をさかのぼると、戦時中の警防団は終戦とともに解除され、昭和22年（1947）４月30日、消防団令により警防団は廃止となり、翌23年（1948）３月、大間町消防団が結成されました。同年６月、大間町消防団は手曳きガソリンポンプ５台を購入し、各分団に配備するとともに、団員を215人に増強、消防力を強化しています。昭和33年（1958）には町民から寄付を募り、最新鋭の消防自動車を購入、町内にとどまらず、風間浦村や佐井村の火災にも出動しました。その後、随時、ポンプなど装備を更新しつつ、消防力の強化に努めてきました。

消防団は毎年４月下旬～５月上旬に、消防団観閲式を行い、服装や機械・器具の点検、放水訓練、分列行進などを行っています。

消防器具の変遷　平成２年（1990）10月、大間町消防団はその活動状況を評価され、県知事表彰を受けました。平成期に入ってからも、次のようにその装備を充実させています。

○平成２年（1990）　新型消防自動車、出力３kVの発電機、照明装置２基、投光器１基、救助用電動ウインチ

○平成21年（2009）　小型動力ポンプ付き水槽車（10ｔ）更新

○平成22年（2010）　消防ポンプ自動車更新

このように器具装備の充実に努めた結果、令和３年（2021）４月１日現在の大間町消防団の構成は次のようになっていました。

団　員　　190人（女性21人）

非常備消防　水槽車１台、消防ポンプ自動車１台、小型動力付き積載車８台、小型動力ポンプ９台、軽可搬式ポンプ２台

また、平成９年（1997）４月１日から奥戸地区で１分団を増強し、９分団体制へと移行しました。令和２年（2020）６月１日には奥戸地区の２分団を１分団とし、８分団体制となっています。

本　団（全域）

本団付（全域）

第１分団（大間西部）

第２分団（大間東部）
第３分団（下手地区）
第４分団（奥戸東部）
第５分団（奥戸西部）
第６分団（材木地区）

平成31年度定期観閲式の様子

平成31年度定期観閲式の様子

独自の組織　昭和55年（1980）10月、材木地区に結成された婦人消防クラブでは、平成３年（1991）４月、下北郡では初となる婦人消防団員として14人が大間町消防団第６分団（材木地区）に入団し、同年５月、定期観閲式に初めて参加しました。平成３年（1991）８月には大間地区に大間婦人消防クラブが、翌４年11月には奥戸地区に奥戸婦人消防クラブが、相次いで結成され活動を開始しています。平成15年（2003）10月、神奈川県で開催された全国女性消防操法大会に青森県代表として大間町婦人消防隊（婦人消防団）８名が出場し、何か月にもわたり訓練に励んだ結果が成果に現れ、見事な消防操法を披露しました。大間婦人消防クラブは、平成10年（1998）３月、日本消防協会優良婦人消防協力隊として表彰、さらに下北広域幼年少年婦人防火委員会会長表彰（平成14年）、青森県消防功労表彰（平成29年）、奥戸婦人消防クラブは、平成16年（2004）11月に青森県消防功労表彰などと、活躍を続けています。

また、大間幼稚園、大間保育園、うみの子保育園に、それぞれ幼年消防クラブが結成されています。

幼年消防クラブの様子

図表３－１　大間町消防団歴代団長

歴代	氏名	在任期間
初代	樋口源太郎	昭和23.3.7　～　昭和35.3.31
２代	岩瀬武三郎	昭和35.4.1　～　昭和39.8.25
３代	島　長次郎	昭和39.8.26　～　昭和53.9.10
４代	荒谷　勝郎	昭和53.10.1　～　昭和57.3.31
５代	笹谷　賢治	昭和57.9.21　～　昭和59.3.31
６代	中島　　隆	昭和59.4.1　～　平成19.5.31
７代	新田　節男	平成19.6.1　～　平成22.5.1
８代	傳法　秀之	平成22.6.1　～　令和４.5.31
９代	宮野　成厚	令和４.6.1　～　現在

大間コミュニティセンター
所　　在：大間町大字大間字大間45
敷地面積：315.56㎡
延床面積：207.02㎡
建物構造：木造２階建て

下手浜コミュニティセンター
所　　在：大間町大字大間字大間平41-7
敷地面積：大間町勤労青少年ホーム敷地内
延床面積：87.165㎡
建物構造：木造１階建て

奥戸コミュニティセンター
所　　在：大間町大字奥戸字浜町通48-1
敷地面積：奥戸交流館敷地内
延床面積：奥戸交流館との複合862.44㎡
建物構造：木造１階建て

材木コミュニティセンター
所　　在：大間町大字奥戸字材木川目24－1
敷地面積：96.13㎡
延床面積：72.9㎡
建物構造：木造１階建て

2 広域消防体制と大間消防署

時代の要請　消防団とは異なり、消防事務に従事する専門職員（消防吏員）を擁する常設の消防機関が消防署です。

消防行政では、大規模化・多様化の傾向を強める災害に対処できるよう、広域消防体制の構築が政策課題となりました。昭和47年（1972）６月、むつ下北地域１市３町４村（むつ市、川内町〔現むつ市〕、大畑町〔現むつ市〕、大間町、東通村、風間浦村、佐井村、脇野沢村〔現むつ市〕）は「下北地域広域行政事務組合」を結成し、むつ市に消防本部を置きました。

この消防本部を核に広域消防体制が構築され、下北全域は消防無線・通信網で結ばれ、消防救急に万全を期すこととなったのです。

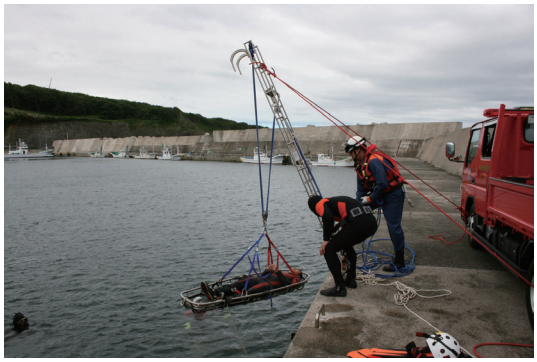
大間消防分署　広域消防体制の成立により、大間町に設置されたのが大間消防分署です。分署庁舎の老朽化のため、昭和52年（1977）６月には、鉄筋コンクリート一部２階建て、延べ面積642㎡の庁舎が新築されました。初代分署長は伊藤冨雄氏（昭和47.6.1～平成元.3.31）、２代は松原忠夫氏（平成元.4.1～平成7.3.31）です。

大間消防署　平成７年（1995）４月、大間消防分署は大間消防署に昇格しました。佐藤昌志署長以下24人の陣容で新態勢に入りました。

また、平成８年（1996）４月、大間消防署としては初、下北地域広域消防では４人目となる救急救命士が誕生し、令和４年（2022）４月現在では９人となっています。

なお、平成25年（2013）４月には、消防無線がデジタル化されました。

大間町は、下北広域消防組合と令和元年度から大間消防庁舎建設構想を協議してきました。令和３


大間消防署訓練の様子

婦人消防クラブの訓練風景

大間消防署

年（2021）７月から令和４年（2022）３月まで実施設計、同年８月には４社による公募型プロポーザル方式が実施されました。建設予定地は、大間字大間平の大間警察署に隣接されます。予定される施設の規模などは、消防庁舎は鉄骨造及び鉄筋コンクリート一部２階建て、訓練塔は鉄骨造またはコンクリート造５階建て、完成は令和６年（2024）３月となっています。

大間消防署施設完成予想図

図表３－２　消防施設の状況

（令和３年４月１日現在）

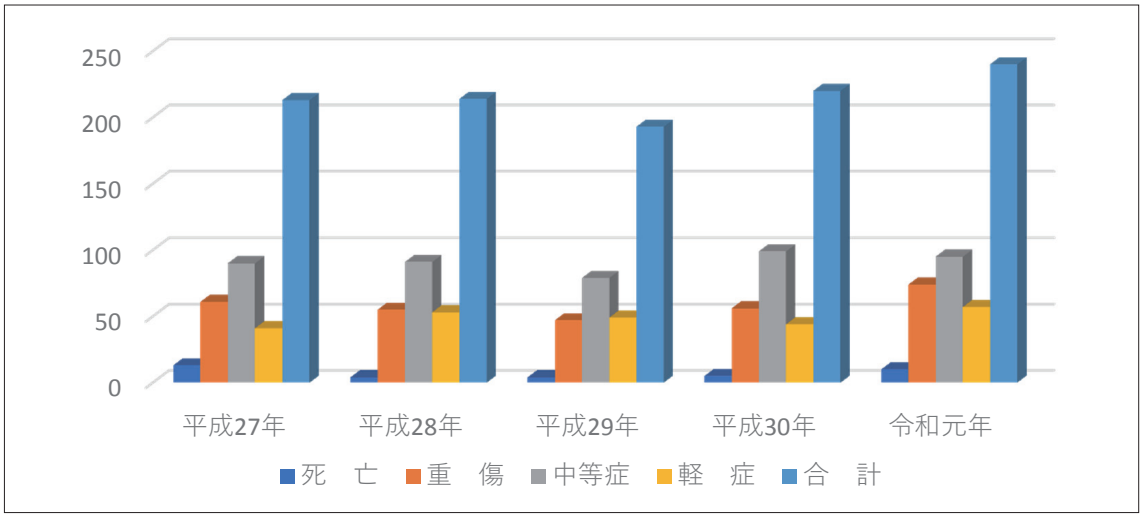
常備消防	消防職員	29人
	水槽付消防ポンプ自動車	１台
	化学消防車	1台
	救急車	１台
	指令車	１台
非常備消防	消防団員	149人
	小型動力付水槽車	１台
	普通消防ポンプ自動車	１台
	小型動力ポンプ付積載車	８台
	広報車	１台
	資機材搬送車	１台
	小型動力ポンプ	１台
消防水利	消火栓	97基
	防火水槽	46基

資料：総務課

図表３－３　大間消防署歴代署長

歴代	氏名	在任期間
初代	佐藤　昌志	平成７.４.１　～　平成９.３.31
２代	高田　　栄	平成９.４.１　～　平成10.３.31
３代	金澤　隆治	平成10.４.１　～　平成11.９.30
４代	高橋　　勉	平成11.10.１　～　平成11.12.31
５代	山本　　稔	平成12.１.１　～　平成17.３.31
６代	小鷹　　崇	平成17.４.１　～　平成23.３.31
７代	木下　裕司	平成23.４.１　～　平成26.３.31
８代	平尾　和大	平成26.４.１　～　平成28.３.31
９代	川村　正明	平成28.４.１　～　平成31.３.31
10代	伊藤　武彦	平成31.４.１　～　令和３.３.31
11代	山本　浩二	令和３.４.１　～　現在

図表３－４　救急出動件数の推移



資料：総務課

3 大火・災害の記録

近年、日本各地で未曾有といわれるような大きな自然災害が頻発しています。

大間町は四季を通して強風が多く、しばしば台風や大火に見舞われ、大きな損害を被ってきました。

平成以降の被害

○平成５年（1993）３月９日　奥戸字奥戸村で住家１戸半焼。１戸部分焼、非住家１棟全焼、１棟部分焼。

○平成６年（1994）６月19日　大間字割石で住家１棟全焼、死者１人。

○平成７年（1995）３月18日　大間字大間平で町営住宅１棟２世帯全焼。

○平成20年（2008）１月23日　大間字大間平で民家１棟全焼、１棟部分焼、死者１人。
○平成21年（2009）１月16日　大間字細間で民家３棟全焼、１棟部分焼、死者１人。
○平成24年（2012）４月17日　大間字大間平で民家３棟全焼、死者２人。

第2節 海　難

1 大間埼灯台（おおまさきとうだい）

大間埼灯台　船舶が安全かつ効率的に航行するためにサポートすることが、灯台の主な役割です。船の操縦者が現在の位置を知り、他の船との接触や暗礁への乗り上げを避けながら、最短のルートを航行するための目印となります。日本には約3,000基の灯台がありますが、GPSの登場などもあって、近年、その存在意義が薄れつつあるのも事実です。

「日本の灯台50選」の一つに選出されている大間埼灯台は、弁天島に大正10年（1921）10月に建設されました。灯台の高さは、基礎上25.43m、平均海水面上35.7m。位置は北緯41度33分、東経140度55分。塗色・構造は、黒色横線、八角形、コンクリート造り、基礎面の直径4.5m、上部の直径2.4m。等級・灯質については、第4級、群閃白光（一定時間を隔てて単一の閃光を発射するもの）18秒を隔てて12秒間に3閃光です。ちなみに、各灯台がみな閃光を異にし、その灯台の特色を表しています。

大間埼灯台　（写真提供：青森海上保安部）

強風や濃霧、海流などに加え、特に亀田半島の汐首岬と下北半島の大間崎は津軽海峡の中でも幅が狭くなっていることから海難事故が多く、大間埼灯台は長年にわたって、重要な役割を果たしてきました。

大間埼灯台は、平成３年（1991）４月、無人化が実現し、70年に及んだ灯台守の歴史に終止符が打たれました。以降、平成20年（2008）３月に無線方位信号が、平成21年３月には霧信号所が、それぞれ廃止されました。

令和２年（2020）11月1日に青森海上保安部が100周年を迎えるプレイベントとして、灯台をライトアップしました。令和３年（2021）６月から大間町役場、北通り総合文化センター「ウイング」などでパネル展、津軽海峡フェリー株式会社大間ターミナルなどで灯台カードデジタルの提供開始、その他絵画コンテストや灯台のリフレッシュ工事が行われました。

令和３年（2021）11月1日に点灯100周年の節目を迎える海照らし100周年記念式典が大間崎で開催されました。式典では絵画コンテスト授与式も実施し、灯台は同年10月31日～11月1日の２日間、日没から午後10時頃までにライトアップされました。

「灯台絵画コンテスト2021」ポスター

「青森特別賞」案内ポスター

海難事故

○平成５年（1993）７月24日

北海道奥尻島沖で発生したマグニチュード7.8の北海道南西沖地震による津波から漁船を避難中に津波被害により死者１人の犠牲が生じました。

○平成10年（1998）７月31日

大間埼灯台の西北西約7.5kmの沖合で岩手県のイカ釣り漁船と英国船（海底ケーブル敷設船）

が衝突したもののけが人はなく、イカ釣り漁船の前部マストの一部が曲がったものの航行には支障はありませんでした。

○平成12年（2000） 5月28日

強風や高波の影響を受けて、大間原子力発電所建設の作業船など計11隻が流出・座礁しました。30日には座礁していた船も発見され、乗組員も無事に救出され、この事故で死者や燃料重油の漏出はありませんでした。

○平成17年（2005）12月21日

大間町沖で、マグロはえなわ漁船が当て逃げされる事件が起こり、青森海上保安部の調査により、イタリア船籍のコンテナ船と特定されました。

○平成29年（2017） 2月10日

八戸市みなと漁協の小型イカ釣り漁船が大間町沖で転覆し、乗組員2人が死亡、2人が行方不明となりました。

○平成30年（2018）11月2日

大間町沖で、地元漁師が漂流している木造船を発見。青森海上保安部の調査によると、船体にハングルとみられる文字が記載されており、北朝鮮から漂着した可能性があると判断され、船内から死体1体が発見されました。

○平成30年（2018）12月3日

大間沖で、地元漁師が漂流している木造船を発見。青森海上保安部の調査によると、船体にハングルとみられる文字が記載され、北朝鮮から漂着した可能性があると判断されました（船内に2名の遺体があり）。

○令和3年（2021） 4月9日

大間漁協所属の漁船が船長等不在の状態で発見され船長は行方不明となる。その後の捜索活動で不明者を発見したが、1人の犠牲が生じました。

第3節 警　察

1 大間警察署の移転

大間警察分署　日本の警察は、明治7年（1874）、当時の内務省に警保寮が設置されたことに端を発します。

明治10年（1877）に青森県内に誕生した５つの警察署のうち、野辺地警察署管内には田名部・大畑・川内・大間の各分署が設置されました。大間村字大間69番地の新田角太郎宅を借り受けた建物が大間分署の庁舎です。職員は三等巡査１人と四等巡査１人で、第六大区四小区（大間・奥戸・佐井・長後・蛇浦・易国間の６か村）を管轄することとなりました。

明治11年（1878）９月、田名部警察分署が野辺地分署から分離して警察署に昇格、大間分署は田名部警察署の管轄に移されました。５年後の明治16年（1883）８月、大間分署は廃止されてしまいます。しかし、本州北端の要地に分署は必要との声を受けて、明治21年（1888）１月、５年ぶりに分署が再発足しました。新たな庁舎は、大間村字大間91番地の山本慶次郎氏宅となりましたが、都合により庁舎は同年３月、再び元の新田角太郎氏宅へ戻ることとなったのです。

こうした状況に対して、明治22年（1889）４月、地元民は、大字大間字大間54番地の官有地277㎡に、木造平屋建て139㎡の庁舎を新築して、大間分署に寄付しました。そして、大間分署（３駐在所、署長１人、巡査５人）の管轄は、大奥・風間浦・佐井の３か村と定められました。時を同じくして大間村と奥戸村が合併して誕生したのが大奥村です。

大間警察署への昇格　大間警察分署をめぐって、大正12年（1923）に大きな動きがありました。同年12月の通常県会で、大奥・風間浦・佐井３か村の村長から大間警察分署の庁舎改築費用3,000円と、庁舎隣接地の大字大間字大間48番地２号地の98㎡の寄付採納願が提出され、審議の結果、可決されました。こうして大正13年（1924）10月に竣工したのが、木造平屋建て125㎡の庁舎です。これは、大間警察署分署が警察署を目指してのことで、それがきっかけとなり、大正５年７月に分署の警察署昇格が実現しました。その後、昭和10年（1935）９月、大間警察署は分署に一旦格下げされたものの、昭和15年（1940）７月に再昇格することとなりました。

自治体警察の発足　戦後の昭和22年（1947）、警察法によって国家地方警察と自治体警察（市町村警察）が生まれることとなり、市と人口5,000人以上の市街的町村には自治体警察が設置され、市町村長の管轄下に市町村公安委員会が置かれ、管理運営に当たることとなったのです。青森県内では、３市29町に自治体警察が誕生し、大間町もその一つでした。しかし、自治体警察は全国的に財政難や国家地方警察との円滑さを欠いた関係性などが大きな課題となり、大間

町では昭和26年（1951）９月、住民投票により大間地区警察署の廃止を決定しました。

結局、警察法の改正によって自治体警察は国家警察に編入されることとなったのです。昭和29年（1954）７月１日、新警察法の施行により、現在の大間警察署が発足。昭和51年（1976）７月、庁舎が老朽化したため、大字大間字大間54番地１に新築移転（鉄筋コンクリート造３階建て）しました。

現在の新庁舎に移転　庁舎建設から約40年が経ち、老朽化も進んだことから、平成27年（2015）11月、大字大間字大間平20番地91に新設された鉄筋コンクリート造３階建ての新庁舎に移転しました。

敷地面積は6,350㎡、庁舎棟の延べ床面積は2,278㎡です。地域防災の拠点として、強靭な構造設計がなされ、停電時でも警察機能を失わないよう自家発電設備装置を備えています。

平成期以降の大間警察署長は図表３－５のとおりです。

大間警察署　新庁舎

図表３－５　大間警察署歴代署長

氏名	階級	在任期間
奈良　正昭	警視	平成元.３.17　～　平成２.３.20
亀田　道隆	警視	平成２.３.20　～　平成３.３.２
中村　征護	警視	平成３.３.２　～　平成４.３.19
小野　　昇	警視	平成４.３.19　～　平成５.３.22
成田　伸治	警視	平成５.３.22　～　平成７.３.５
松山　武治	警視	平成７.３.６　～　平成９.３.26
工藤　重春	警視	平成９.３.26　～　平成11.３.１
平澤　清美	警視	平成11.３.１　～　平成13.３.26
小笠原尚武	警視	平成13.３.26　～　平成14.３.25
宮城　　守	警視	平成14.３.25　～　平成16.３.25
嶋山　俊英	警視	平成16.３.25　～　平成17.３.25
古川　憲正	警視	平成17.３.25　～　平成19.３.５
新谷　眞人	警視	平成19.３.５　～　平成20.３.25
長尾　幹敬	警視	平成20.３.25　～　平成21.３.25
其田　顕一	警視	平成21.３.25　～　平成23.３.７
小野冨志幸	警視	平成23.３.７　～　平成24.３.26
鈴木　　誠	警視	平成24.３.26　～　平成25.３.25
齊藤　　淳	警視	平成25.３.25　～　平成27.３.９
佐藤　隆史	警視	平成27.３.９　～　平成29.３.24
白濱　　守	警視	平成29.３.24　～　平成31.３.11
髙坂　精一	警視	平成31.３.11　～　令和２.３.11
乙部　俊一	警視	令和２.３.11　～　令和４.３.25
猪股　　穣	警視	令和４.３.25　～　現在

2 交通事故・交通事故対策

交通事故対策　大間警察署は、町の交通安全協会など関係諸団体とともに交通事故防止運動を展開してきました。

平成４年（1992）３月３日には、管内３か町村（大間町・風間浦村・佐井村）の交通死亡事故ゼロが3,145日でストップし、次に平成21（2009）年１月10日には交通事故死亡ゼロが3,990日でストップしたものの、その後、令和２年（2020）１月14日には、交通死亡事故ゼロ2,000日を達成しました。また、大間町単独では、令和４年（2022）１月12日には交通死亡事故ゼロ13年間を達成し、青森県知事から表彰を受けて、令和4年（2022）6月末現在4,918日と継続しています。

交通事故　年間を通じた官民一体の交通事故防止運動の展開が功を奏し、交通事故発生件数は、図表３－６のとおり、平成23年（2011）以降一桁台で推移しています。

図表３－６　大間町の交通事故の推移

区分＼年	平成3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
発生件数	13	16	17	22	16	10	6	14	19	12	13	19	5	7	7
死者数（人）	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
傷者数（人）	17	22	23	31	17	10	6	15	22	12	24	23	5	8	7

区分＼年	平成18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和元	2
発生件数	10	8	8	13	10	9	9	8	3	0	2	5	2	4	5
死者数（人）	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
傷者数（人）	15	8	8	12	13	12	10	8	3	0	2	7	2	6	7

交通死亡事故ゼロ13年間を達成し、青森県知事から表彰を受ける

信号機設置　交通安全対策上、道路交差点や危険箇所への信号機の設置は重要です。大間町交通安全対策協議会の道路診断等に基づき、これまで設置された信号機は、図表３－７のとおりです。

図表３－７　大間町内の交通信号機設置一覧表

番号	設置交差点名	運用開始年月日	備考
1	小島商店前	昭和51.12.7	
2	下手道	昭和52.11.28	
3	大間町役場前	昭和55.10.2	
4	大間バイパス中央	昭和56.9.1	
5	常盤町	昭和56.11.17	
6	総合文化センター前	平成9.12.22	押しボタン式
7	大間崎団地南側	平成14.8.9	
8	大間平	平成15.3.17	
9	汐見町	平成17.10.28	
10	春日神社入口	平成22.3.31	押しボタン式

第4節 交通対策

1 大間町交通整理員

交通整理員とは　交通整理員は、昭和56年（1981）７月に大間町交通整理員の制度が発足しました。交通整理員は、横断歩道その他の指定する場所において、歩行者、特に児童等が安全に道路を通行するために必要な誘導などを行うとともに、通学路等の交通安全施設の点検も行います。「みどりのおばさん」と呼ばれ、親しまれてきました。

交通整理員は、業務に相応しい者のうちから町長が委嘱し、任期は３年です。その勤務時間は１日３時間（登校時１時間、下校時２時間）とし、勤務日数は年間300日以内となっています。

あいさつ運動の様子（令和３年４月）

図表３－８　歴代交通整理員

歴代	氏名	在任期間
初代	清水　克子	昭和56.７　～　平成８.９
２代	山崎アイ子	平成８.10　～　平成12.12
３代	神馬コーラル	平成12.12　～　平成16.12
４代	佐藤美津子	平成16.12　～　平成18.12
５代	小島　正美	平成19.２　～　現在

2 大間町交通安全対策協議会

交通安全対策協議会とは　交通安全対策基本法に基づき、都道府県には都道府県交通安全対策会議が、市町村には市町村交通安全対策会議（任意設置）が設置されています。こうした交通

安全対策会議は、交通安全計画の作成やその実施の推進、陸上交通の安全に関する総合的施策の企画の審議、その実施の推進、関係行政機関の連絡調整を図るのが主な業務です。

主な活動　大間町交通安全対策協議会は、昭和61年（1986）に発足しました。主な活動は、春秋の全国交通安全運動においては、関係各機関と協力して通学時の街頭指導に当たるほか、期間中ののぼり旗設置、広報無線による事故防止の啓発なども行います。秋の全国交通安全運動では、関係機関の協力を得て、大間小学校鼓笛隊を先頭とする大間地区パレードを実施。また、夏と冬の交通安全県民運動においても同様の活動を行い、夏には奥戸小学校鼓笛隊を先頭とする奥戸地区のパレードを実施します。こうした交通安全パレードは、子どもと高齢者の安全な通行の確保、高齢者の運転事故防止、夕暮れ時・夜間の交通事故防止、全座席シートベルト・チャイルドシートの正しい着用の徹底、飲酒・暴走運転の根絶などが目的です。

平成30年度秋の交通安全パレード（大間地区）

平成30年度夏の交通安全パレード（奥戸地区）

図表３－９　歴代会長・任期

歴代	氏名	在任期間
初代	中島　　大	昭和61.4　～　平成７.４
２代	石戸　秀雄	平成７.５　～　平成11.４
３代	小林　唯八	平成11.５　～　平成15.４
４代	清水　　潔	平成15.５　～　平成19.４
５代	竹内　　弘	平成19.５　～　平成23.４
６代	石戸　秀雄	平成23.５　～　令和５.４

3 大間町交通安全母の会連合会

活動内容　大間町交通安全母の会連合会は、各地区の交通安全活動団体に所属する女性と個人会員（女性）から構成されます。連合会の目的は、交通安全に対する女性の立場から、日常生活において交通安全教育の推進者となり、自ら率先して交通道徳の高揚に努めるとともに、子

どもや高齢者を交通事故から守るために関係団体と密接な連携を保ち、交通安全思想の普及と安全活動を実現し、交通事故のない明るい地域づくりに貢献することです。

同連合会は、この目的を達成するために、①交通安全意識の啓蒙、研修会などの開催、②子どもと高齢者を交通事故から守るための活動・安全指導、③各種交通安全運動と交通安全活動へ参加・協力、④各地区母の会会員の指導と連絡調整などの事業を行っています。

事業実績　具体的な活動の実績としてまず挙げられるのは、交通安全の見守り活動です。

新入学（園）児の交通安全県内一斉啓発活動では、「どうろをあんぜんにわたろう！」と題したパンフレットを配付するほか、登校時の街頭での見守り（春・秋の交通安全週間）、新1年生への下校指導などを実施しています。

高齢者との触れ合いについては、反射材着用の啓発や防犯の呼びかけ、老人クラブと連携しての交通安全教室の開催、パークゴルフなどを実施しています。

反射材付けよう活動

大間小学校へ下校指導

大間町交通安全母の会連合会の活動